

中川正春の永田町かわら版

2005/5/19 第235号

【編集元】民主党三重第2区総支部 衆議院議員中川正春事務所

E-mail: g03063@shugiin.go.jp

三重／〒513-0013 鈴鹿市国分町453-7 TEL:0593-73-3933/FAX:0593-74-3088

東京／〒100-8981 千代田区永田町2-2-1衆議院第一議員会館428号室 TEL:03-3508-7128/FAX:03-3508-3428

○大事な法案。十分な議論を。

大事な法案が国会の中でどんどん議論されています。会社法が久し振りの大改正となり、有限会社がなくなって1円の株式でも設立可能な株式会社一本になったり、税理士が会社の中に入って帳簿を直接管理する制度が出来たり、経営者の権限なども株主に対して強いものになる改正が行われました。同時に、ホリエモン事件などの教訓から、証券取引法でも公開買付のルールが見直されています。

福祉の分野では、介護保険法の見直しで、家事援護などのサービスを有料化することなどは、つよい反対意見が出ています。障害者自立支援法も、その基本になっている理念の大転換であるにもかかわらず、与党は深い審議をせずに逃げ切ってしまうという魂胆です。精神、身体などの障害にかかわらず、介護保険のように一部自己負担を前提に指定された枠内でサービスを選んで組合す制度を作ろうとしています。個々人にたいする具体的なサービスの量などが、法律が出来てから、そのあと政令によって決めるという「お上の通達」方式がここでも明らかになってきたものですから、結果的には、福祉の削減になるのではと、障害者の人々に大きな不安を抱かせています。

法案では、骨子だけをつくり、中味は役人が勝手に政令省令でコントロールをするやり方は、役人任せの自民党では通るが、私達民主党には通じません。

○成熟した政治のヨーロッパ

「フランスやオランダの国民投票で、仮にEU憲法案が否決されても、慌てる事はない。彼らがEUから離脱をすることはありえない。25の国のヨーロッパ統合はそこまで熟してきた。私達は、それぞれの国が批准するまで何回も辛抱強く説得しますよ。」ヨーロッパ共同体の議員たちが日本の国会で私達に説明した言葉です。

丸二日をかけて、日欧の問題を話し合った中には、中国や韓国とともにアジアでも共通通貨や集団的な安全保障の共同体をつくる努力が必要だと言う指摘もありました。

もう一方で、出席している議員達の意見の食い違いを楽しげに理解しあう、日本ではちょっと考えられないような場面なども含めて、とても刺激になった会議でした。

小泉さんが靖国問題で中国や韓国に対して「ケンカをするなら受けてたつ。」と肩を怒らせてすごんで見せるのとは正反対の雰囲気です。「お互い考え方も文化もそして、言葉も違う。その違いを大事にして、楽しみながら仲良くして、一つになろう。」ヨーロッパは、これまで腹いっぱい戦争をしてきただけに、今ではこのようにすっかり大人の成熟した外交があるのかなと、つくづく感じ入りました。

○議長さん副議長さんおめでとう。

5月は、地方議会の役員選挙の季節です。三重県議会では、私達の会派「新政みえ」が、単独過半数の勢いをもって、議長、副議長の両方のポストをとったようです。さらなる議会改革を進めていくと張り切る田中新議長、三谷新副議長に拍手を送りたいと思います。

国会の政党間の対立的な運営と比べると、地方議会は、知事や市長部局との緊張関係によって成り立っています。首長は、大統領みたいなものです。ところが、よく調べてみると、日本の知事さんや市長さんは、議会に対して大統領より数倍も強い権限を持っています。予算だけではなく条例(法律)は、知事や市長部局から提出され議会の修正などほとんどありません。アメリカなど大統領制の国では、全て議会(議員)から提出されるのです。三重県の議会改革は、この辺の力をぜひ逆転させるような流れにもって行って欲しいと思います。市会議員さんに、「この際、一年限りでたらいまわしをするような議長の任期を、改革したらどうか。少なくとも一期四年間。知事や市長に対して、議長の値打ちが上がり、議会に力がつくのではないか。」このようなことを言ったら、「中川さん。頼むからややっこしいことを言って、議会の中をかき回さないでください。それでなくとも役選は徹夜なんだから。」と、しかられました。